

入選

よりそう気持ち

長野県 小山小学校

四年 池上 綾乃

私は、4年生のはじめから、小学校の合唱団に入って歌の練習をしています。合唱団の練習はとっても楽しくて、練習がある日はうきうきしながら登校しています。6月の下旬からは、夏休み中に開さいされる合唱コンクールに向けての練習がはじまりました。

コンクールでは、自由曲と課題曲の2曲を歌うことになっていますが、今年はコロナウイルス対さくで一曲25人までしか出られません。私の学校は、全部で27人なので、4人は一曲しか歌うことができません。私は、せっかくコンクールに出るのだから、2曲とも歌いたいと思い一学期の練習には休まずさん加していました。それなのに、一週間前にとつぜんのどの調子が悪くなり、大事な練習を3回も休むことになってしまいました。

その後、のどの調子がよくなり、コンクール直前の3日間は練習にさん加できたので、私はきっと2曲とも出られると思い、メンバーの発表を楽しみに待っていました。

いよいよ前日に、先生から一曲しか出られない人の名前がよばれました。

「Aさん、Bさん、綾乃さん、Cさん。」

私は、信じられない気持ちと悲しい気持ちと、くやしい気持ちでいっぱいになりました。本番は明日なのに、つらくてつらくて、家でもずっと泣いていました。その夜、お母さんが先生に電話をかけてくれました。先生には、

「悲しい気持ちで歌ってほしくはないから、明日は元気に来てください。」

と言われました。私は、(一曲でも歌えるのだから、明るく楽しくがんばらなきゃ)と気持ちを切りかえました。

コンクール当日、本当はまだ、少しくやしい気持ちものこっていたけれど、朝は元気に家を出ました。学校での練習が終わり、会場へ向かう前に校長先生からこんなお話がありました。

「一曲しか出られない4人のみなさんは、4人にしかできない大事な役目があります。それは、歌わないときに、みんなを外から応えんすることです。他のみなさんは、4人の分まで、一生けん命歌ってください。」

私はそのとき、心のおくにのこっていた暗い気持ちがすうーっと消えていくのがわかりました。本番のぶたいでは、晴れ晴れとした気持ちで歌うことができました。

私は、コンクールでは一曲しか歌うことができなかつたけれど、きちょうなけいけんをして、大切なことを学ぶことができました。

この先、もし友だちが、私と同じようにつらい思いをしていたら、そのつらい気持ちによりそってあげたいと思います。そして、友だちがえがおになれるお手伝いができたらいいなと思います。

私は、人のいたみがわかるやさしい人になりたいです。